



アジア・オセアニア高校生フォーラム分科会にて発表

7月29日（月）から7月31日（水）に開催された「世界との対話と協働：アジア・オセアニア高校生フォーラム」に、2年生環境科学科の吉田実永さんが参加しました。29日（月）の開会式やデモンストレーション、30日（火）の分科会（貧困問題）、31日（水）の全体会を通して、自他の考えを相互交流させ、議論を通してテーマに対する知見を深めました。最終日には、稲村の火の館を通して、参加した国内外の生徒たちと交流を深めました。以下、参加した吉田さんの感想です。

『初日の分科会では司会を務めた。周りを見ながら対応する良い練習になった。また、質問を常に考えておき、それを英語で話すことができたため自信がついた。分科会の準備を通してメンバーとの仲も深まった。分科会が終わったときは、皆のプレゼンを良いものにできたことに達成感を感じた。2日目の夜に行われた歓迎レセプションは、海外からの生徒との交流ができる良い機会となった。他グループの人ともたくさん話せ、自分の世界が広がるのを感じた。また、立ちながらの食事は初めてだったから新鮮で楽しかった。参加者の皆が一体になったように感じ、とても良いイベントだったと思う。3日目の全体会では分科会でのプレゼンを要約し、進行も行った。多くの文量を覚えなければならなかったため、大変だったが、いざ本番になるとリラックスして楽しく発表ができた。前日までグループ全員で準備していたから、良いものができて本当に良かった。聴衆の方が頷いてくれたり、質問してくれたりしたことが私の一番嬉しいことだった。その後の修了式でも皆がリラックスして良い雰囲気でもフォーラムを終えることができた。次に稲村の火の館を訪問した。海外の子と話しながら、少し変わった視点で展示を見ることができた。改めて地元の偉人である濱口梧陵の偉大さを知り、それを他国の人に知ってもらうことができ、光栄だった。フォーラム中に世界の問題について話し合い、最後に稲村の火の館に訪問することで、より問題への興味が湧いた。フォーラム全体を通して、英語を使って人と交流することの楽しさを実感した。なかなか海外の人と関わることが少ないなかで、3日間も交流することができ、本当に良い経験となった。また、人前で発表や意見を述べることに対して抵抗感が減った。元々人前で話すことが好きだが、今回のフォーラムに参加して、勇気を出して発言することの大切さを知った。そして、やはり英語力は圧倒的に伸びた。これからの英語の学習などにも活かせると思う。中学生・高校1年生の皆さんには、ぜひ参加者としてこのフォーラムに関わってほしい。自分の中で革命が起こったように、新しい何かが切り拓ける機会になると私は思う。』

